

## 一サラリーマンにとっての本と図書館

中垣内 隆久 教授  
(地方財政論)

もともとは公務員だが、4月から本学部にお世話になっている。その前は、北の大地、北海道は札幌市役所に出向していた。札幌には1000日と少しお世話になった。その間、本も1000冊以上増えた。ついでに言えば、安ワイン(@500円)も嫁と二人で1000本くらい空けた。

本を買いだめする癖がついたのは渡部昇一「知的生活の方法」のせいである。読書が知的生産の質と量を左右するというテーゼを「本を買いさえすれば賢くなる」と勝手に勘違いし、せっせと本を買い増した。

学生時代には立花隆のネコビルに圧倒され、「連載を始める前にトラック1杯分(3杯だったかもしれない)の資料を集める」という司馬遼太郎のエピソードに憧れた。社会人になり、1~2年サイクルでの異動と転勤が繰り返される。特に専門といえる畑をもっていない私は、縁もゆかりもない行政分野に放り込まれた。法制、消防、税、IT、行政評価、行革、組織編成、総合計画、金融、予算、入札契約……。毎回の異動のたびに笑ってしまうくらいゼロからのスタート。

五里霧中でも周りは容赦してくれない。ハタハリをかませるくらいの知識は一日も早くマスターしないとイケない。民間でその状況に近いのは経営コンサルタントだろう。コンサルタントのノウハウ本にあったのは「新しく担当する業界に関連する本をとにかく買え。10万円分も買えば格好はつく。金を惜しむな。インターネット上の無料情報はそれだけの価値しかないことが多い。」ということ。この間、amazonを知ってしまったのもよくなかった。断捨離好きの嫁の形相は見ぬふりをして本を買うペースに拍車がかかった。

札幌に来てからは、関心の対象に事欠かなかった。札幌や北海道の歴史を知りたければ、北海道新聞データベース、北海道開発局〇年史や札幌市史は当然として、さっぽろ文庫、中央図書館の郷土資料コーナーの蔵書、財界さっぽろの別冊、北海道新聞社の単行本を夢中で漁った。

経済の特定業種が気になったら、まずは業種別審査事典。融資担当の銀行マン向けのこの事典は各業種の経営環境や収益構造などを分かりやすく解説してくれる。これは貸出禁止なので図書館で著作権法違反にならないギリギリの範囲までコピーをとらせてもらった。

自宅の隣が市立図書館（札幌市中央図書館）という立地を存分に享受し、とにかく図書館のお世話になった。本当にお世話になった。本を借りるのはもちろんのこと、気になるテーマがあるつど、「観光について」「就労支援について」「空港民営化について」「建設業の経営について」「オリパラについて」矢継ぎ早にレファレンスコーナーにメールで問い合わせた。いい本や雑誌記事があれば教えてくださいと質問した。

だいたい1週間程度で詳細極まりない調査結果をいただける。「図書館員は市民の有能な知的スタッフである」というのは心底からの私の実感である。あまりに照会頻度が高いせいか「中垣内」という名字はヘビーユーザーとして図書館の職員さんの間で少しは知られていたそうだ。素直に喜んでよいのかどうか。

私が本学部にお世話になって感謝していることの最大の一つは、大学図書館を使えること。本が本を紹介してくれるのが本の良いところだ。誘導されるままに本に取り組んでいると、いつか、知りたいことの全容が頭の中でつながる瞬間がある。つるはしのひと撃でトンネルが開通するかのような、スコップのひと堀で山芋の一つながりがずるっと掘り出されるような、そんな感じ。大学図書館では、膨大なデジタルコンテンツも使い放題。どんな分野でも、ひとかどの人物になるには1万時間の蓄積が必要という説がある。学生の皆さんのアドバンテージは、まとまった膨大な時間が自由になるということ。ぜひ、大学図書館を使い倒し、多くの知的刺激を脳に与えてください。